

認知症にはいくつかの種類がありますが、主なものとして、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症が挙げられます。このうち約60%はアルツハイマー型認知症とされています。認知症の種類によって脳内で起きている変化が異なり、症状も変わってくるため、それぞれに合わせた適切な対応が重要となります。

Q. 認知症の薬はどのようなものがありますか？

A. ①「アセチルコリンエステラーゼ阻害薬」が3種類と②「NMDA受容体拮抗薬」が1種類の4種類の薬が使用されています。(2017年8月現在)

①「アセチルコリンエステラーゼ阻害薬」

3種類の薬がありますが、共通して神経伝達物質（アセチルコリン）の分解を抑え、スムーズな情報伝達を助ける働きがあります。

●アリセプト®（ドネペジル塩酸塩）：錠剤、口腔内崩壊錠、ドライシロップ、ゼリー、細粒と一番剤形が多く、飲みこみの状態などによって選ぶことができます。主な副作用に、食欲不振、吐気、下痢などの消化器症状があります。認知症の治療薬の中では唯一アルツハイマー型認知症以外にレビー小体型認知症の治療にも使用されます。

●レミニール®（ガランタミン臭化水素塩）：錠剤、口腔内崩壊錠に加え、小さなパウチに入っている内用液もあり、服薬に介助が必要な方にも便利です。主な副作用として食欲不振があります。

●リバスタッチ®/イクセロン®（リバスチグミン）：唯一の貼り薬です。主な副作用にかゆみなどの皮膚症状があるため、あらかじめ保湿剤を使用して予防したり、かゆみを抑える塗り薬と一緒に使用することがあります。

②「NMDA受容体拮抗薬」

●メマリー®（メマンチン塩酸塩）：カルシウムイオンが脳神経細胞に過剰に流入するのを防ぎ、情報伝達を整える働きがあります。アセチルコリンエステラーゼ阻害薬とは異なる働きを持つので、併用して服用することもあります。主な副作用としてめまいや眠気があります。

これらの薬は副作用が起きる可能性を出来るだけ抑えるために、少ない量から始め、徐々に増やしていくという方法で服用します。薬物療法を開始しても症状の変化がみられず、効果が実感できない場合でも、治療していない場合より症状の進行を遅らせている可能性があります。また、服用を中止してしまうと症状が急に悪化してしまう場合もあります。自己判断で中止せず、主治医の先生と相談しながら治療を受けましょう。

執筆薬剤師 小林 悠

わたらの健康とくすり

第259号



撮影/藤井 千文

今月の内容

- ・痛風・治療に大切な「おくすり」シリーズ ~その4~痛風の予防と治療<くすり>
- ・ハチミツによる乳児ボツリヌス症について
- ・おくすりQ&A 認知症の薬について

2017年8月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

痛風・治療に大切な「おくすり」シリーズ ～その4～ 痛風の予防と治療<くすり>

今回の主題は血液中の尿酸値を下げるための「くすり」です。

高尿酸血症・痛風の治療薬は次の2種類に分類されます。

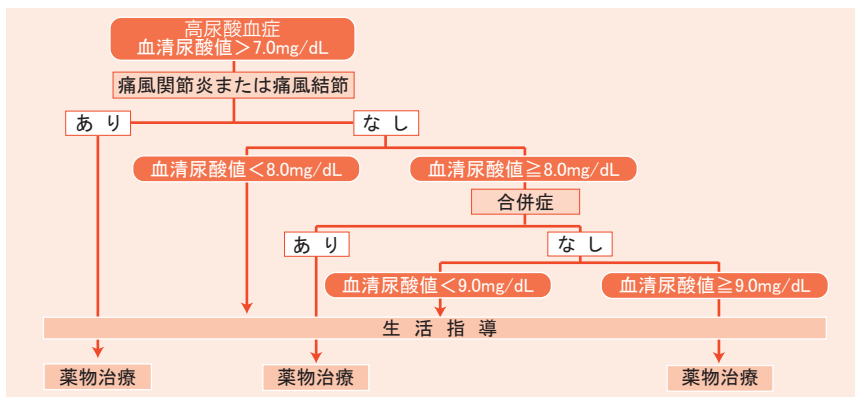
- (1) 尿酸排泄促進薬：体内の尿酸を尿中に排出するのを促進します。
- (2) 尿酸生成抑制薬：尿酸を合成する酵素を抑制して、尿酸の生成を抑えます。

血液中の尿酸値が7mg/dLを超えていても、これまで痛風の発作を起こしたことがない場合はすぐにくすりをはじめるのではなく、まず生活習慣を改善しましょう。

- ・肥満を改善
- ・適切な運動
- ・プリン体や果糖の過剰摂取制限
- ・飲酒制限
- ・脱水にならないよう水分摂取を心がける（ただし、砂糖入りソフトドリンクは控えましょう）

それでもよくなる場合は薬物療法をおすすめします。痛風の発作を起こしたことがある人、合併症(腎障害・尿路結石・高血圧・糖尿病・心筋梗塞や狭心症・メタボリックシンドローム)を持っている人は薬が必要になることが多いです。腎機能が低下している人や尿路結石の既往がある人は尿酸生成抑制薬が第1選択となります。

高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン（第2版）を参考にしてください。



参考 URL

<http://www.tukaku.jp/wp-content/uploads/2013/06/tufu-GL2.pdf>

東京医科大学八王子医療センター リウマチ系疾患治療センター
青木 昭子

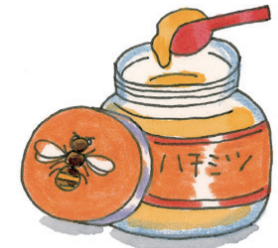
ちょっとお耳を……

ハチミツによる乳児ボツリヌス症について

今年3月に生後6ヶ月の乳児がハチミツ摂取による“乳児ボツリヌス症”で亡くなったことが話題となりました。赤ちゃんにハチミツはよくないと、漠然と知っている人も多いかと思いますが、今回は改めてその理由と食べてしまった時の対処方法について説明します。

・どうしてハチミツを食べさせてはダメなの？

ボツリヌス菌は通常ヒトの消化管では増えることができないので、ハチミツを食べてもボツリヌス症にかかることはありません。しかし、**生まれたばかりの赤ちゃんは消化管が未発達なので、ハチミツに含まれるボツリヌス菌が腸の中で増殖することができます。**そのため、赤ちゃんがハチミツを食べてしまうと増殖したボツリヌス菌の毒素が体内に吸収され、乳児ボツリヌス症を発症してしまうことがあります。**発症すると便秘や神経麻痺症状が起こる可能性があり最悪の場合は命にも関わります。**1987年には厚生労働省から注意喚起も行われていましたが、死亡するまで重症化することは稀だと言われています。



・何歳まで避ける必要があるの？

1歳未満の赤ちゃんにハチミツをあげてはいけません。生後6ヶ月までの乳児は特に発症しやすいとされています。1歳を過ぎる頃には消化器官が十分に発達するため、ハチミツを食べてもボツリヌス菌が腸の中で増殖することはできなくなります。そのため、食中毒を起こすことはないと言われています。また、母乳を介してボツリヌス菌が感染することはないので母親がハチミツを食べることへの心配はいりません。

・もしハチミツを食べさせてしまったらどうしたらいいですか？

万が一ハチミツを食べさせてしまった場合には、**口の中をぬぐい、母乳などの水分を飲ませて薄めるようにしましょう。**その後必ず医療機関を受診して下さい。またボツリヌス菌は感染してから発症するまでの潜伏期間が3日～30日もあるので問題がなさそうでも約1ヶ月は様子を見る必要があります。

日本で市販されているハチミツの最大6.7%にボツリヌス菌が含まれています。また加工品としてハチミツが使われていることも多いため食べさせる前には必ずチェックしましょう。健康効果や殺菌効果、美容効果もあり優れた食材です。正しくハチミツを食べるようにしましょう。

執筆薬剤師 松村 紅沙